

第2次昭和 5銭 東郷平八郎

田畑 裕司

昭和切手は、中学生の頃から集めていたので、50年近くの収集歴があります。もっとも一番熱中していたのは学生時代で、大学院生だった1981年に東京で開催された国際切手展に、第2次昭和を含む昭和切手全般を5フレーム出品し、銀賞を受賞したこともありました。当時の国際切手展は、ジュニアクラスの年齢が26歳位が上限でしたので、ジュニアでも出品できたのです。就職してからは、小判切手が重点になってきましたので、昭和切手は無理をせずに、気ままに集めてきました。スタンプショーはかたには、東郷平八郎図案である第1次昭和4銭、第2次昭和5銭・7銭の3種について、以前にも出品したこともあったのですが、今回、第2次昭和5銭に絞り込んで2フレームにまとめてみました。

さて、この切手は、昭和17年（1942）4月1日に、第1種封書基本料金がそれまでの4銭から5銭に改定されたことに伴い発行されたものです。図案は、第1次昭和の4銭と同じで、色調が蘇芳（すおう）色に変えられました。そして、敗戦が近づくとともに印刷が粗雑になり、昭和20年（1945）1月には糊なしも出現しました。敗戦後は、昭和22年（1947）8月31日限りで、使用禁止（追放切手）になっています。

作品については、未使用で製造面を、使用済による消印とエンタイアでの使用面から分類した専門収集です。製造面では、糊の有無で分けた上で、印刷時期ごとに銘版や印面と枠線までの間隔を分類するとともに、代表的なバラエティを未使用100面完全シートで示しました。

使用面では、消印や速達、書留などの特殊取扱に加えて郵便料金の変遷も示しました。さらに、朝鮮、台湾、関東州、樺太の外地に加えて、南方占領地における使用例も示しています。

【第1リーフ】糊あり、内閣銘

銘版付き切手で、印刷時期を色調や目打の抜け具合等で示したものの。印面と枠線までの間隔も分類。

【第2リーフ】糊あり、大日本帝国印刷局製造銘版 100面完全シート

このコレクションの目玉。大日本帝国印刷局製造銘版が出現してすぐに、糊なしになったので、その組み合わせは少ない。状態が抜群によく、素晴らしいもの。

【第3リーフ】糊なし、大日本帝国印刷局製造銘版

糊なしの銘版は「大日本」のみ。銘版付き切手で、色調や印面と枠線までの間隔を分類。下段のものは、チョコレートの色に近い。

【第4リーフ】スマトラ使用、蘭印切手との混貼

スマトラ使用は小為替手数料原符に貼付されたものが多く、このような実便は貴重。蘭印切手との混貼が南方占領地の使用例として好ましい。

第2次昭和

5銭 東郷平八郎

糊あり

初期印刷

初期印刷は、印刷が鮮明で目打の抜けもよい。色調は「暗い赤紫」である。



3.0mm

銘版：内閣印刷局製造



3.0mm

銘版：内閣印刷局製造

中期印刷

中期印刷では、徐々に印刷が荒くなり、目打の抜けも悪くなる。色調は「暗い赤紫」で、赤味を帯びてくるが、黒味を帯びた暗色系のものが多くなる。



2.9mm



3.0mm



3.1mm

銘版：内閣印刷局製造

【第1リーフ】糊あり，内閣銘



【第2リーフ】糊あり，大日本帝国印刷局製造銘版 100面完全シート

第2次昭和

5銭 東郷平八郎

糊なし

糊なしになると、目打がほとんど抜けておらず、擦れた印刷も出現する。
色調の「暗い赤紫」も様々で黒味を帯びたものまである。



2.9mm

銘版：大日本帝国印刷局製造



3.1mm

銘版：大日本帝国印刷局製造



3.1mm

銘版：大日本帝国印刷局製造

【第3リーフ】糊なし，大日本帝国印刷局製造銘版

第2次昭和

5銭 東郷平八郎

スマトラ使用

蘭印切手との混貼



MEDAN 昭和18年1月11日
欧文日付印

料金：島内封書
50gまで20銭

【第4リーフ】スマトラ使用，蘭印切手との混貼